

ふるさとルネッサンスだより

2013.12.10
No.23

対談『勝山左義長まつり』の伝統を未来につなぐ
～平成25年度地域伝統芸能大賞地域振興賞受賞記念対談～

関西勝山会・東京勝山会から 他



地域伝統芸能全国大会（日本の祭り in 石川 2013）での公演の様子

「魅力ある祭りを次世代に」

勝山左義長まつり実行委員会 委員長 松村 誠 一

このたびは勝山左義長まつりが平成二十五年度地域芸能大賞の地域振興賞を受賞し、まことにうれしく思います。受賞できましたのも、三〇〇年の伝統を守り地域振興のため左義長まつりに携わってきた多くの人の御尽力によるものと感謝しています。

十月五日、金沢市で開催された日本の祭り2013における授賞式では、オリンピック誘致にご尽力いただいた「時の人」でもある高円宮妃殿下から直接メダル授与を賜りました。また左義長ばやし保存会は、同会場で二日間全国の受賞者とともに左義長太鼓を披露し喝采を浴びました。この受賞を機に、さらに全国に向けて「勝山左義長まつり」を発信できるように努めてまいります。

勝山左義長まつりも五〇年前頃までは、本町筋のまつりと言つて色合いが濃かったのですが、昭和五十七年に勝山市の観光行事として位置づけし、実行委員会を結成、祭り開催日も毎年二月二十四日・二十五日に行っていたのを、毎年二月の最終土日に変更いたしました。それまでであった作り物コンクールだけでなく、行燈コンクールやスタンブラリーなどの「おもてなし」行事を加え観光客に楽しんで頂けるようになりました。

また昭和四十七年からはじめた子どもばやしコンクールが開催される中、過去に芸妓衆が担ってきた三味線や唄なども、子ども会の保護者や一般の方に引き継がれ、櫓を担う人たちのすそ野も広がってきています。

しかしながら、各区櫓を維持する世帯が少なくなっていく地区では年番（※）の負担が毎年大きくなるという課題もあります。反面、老若男女が何ヶ月間も協力し祭りを作り上げていく過程は地域の絆を深める意味合いからも大切なことです。他の地域の方や左義長ファンを巻き込んでマンパワーを充実し持続可能な体制を築いていく必要があります。

明治以降左義長を休んだのは太平洋戦争中と三八豪雪、昭和天皇崩御による自粛のみです。魅力ある勝山左義長を次の世代にしっかりと引き継ぐため、実行委員会は全力で努めてまいりますので市内外の皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

『勝山左義長まつり』の 伝統を未来につなぐ

平成二十五年地域伝統芸能大賞地域振興賞受賞記念対談

【出席者】

勝山左義長まつり実行委員会

委員長 松村 誠一

勝山左義長ばやし保存会

会長 木村 照雄

ふるさとルネッサンス委員会

委員長 丸屋 仁志

(勝山左義長まつり実行委員会相談役)

委員 荒井 由泰

笠松捷多朗

森本 陽子

阿部 光郎

松下 一栄

(順不同・敬省略)



ふるさとルネッサンス委員会
委員長
丸屋 仁志

丸屋…十月五日、六日の授賞式には、勝山左義長まつり実行委員会から、私と実行委員長の松村副市長が参加してきました。また、勝山左義長ばやし保存会の皆様には会場で左義長ばやしを披露していただき、素晴らしい賞に花を添えていただきました。今回の受賞は地区の皆さんが長い間祭りを守り続けていただいたことに対

しての奨励賞だと思います。



ふるさとルネッサンス委員会
委員
荒井 由泰

荒井…「地域伝統芸能大賞地域振興賞」はどのような賞でしょうか。また、この賞が持つ意味合いとはどのようなものかお話を伺えますでしょうか。

松村…一般財団法人地域伝統芸能活用センターが、地域の伝統芸能の活用を通じて、地道に活動している地域を検証し、地域の観光や商工業の振興に大きく貢献したと認められる団体や個人を表彰しています。今回で二十一回目になります。一番優秀な賞は高円宮殿下記念地域伝統芸能賞で、高円宮家の紋の入ったメダルと賞状が高円宮殿下から渡されるというものです。石川県で開催されるのは二回目ですが、今年は石川県輪島市の御陣乗太鼓(ごじんじよだいこ)保存会が最優秀賞に選ばれました。そのほかの賞に地域伝統芸能大賞というのが四部門(保存継承賞・活用賞・支

援賞・地域振興賞)と、地域伝統芸能奨励賞というのがあります。勝山左義長まつり実行委員会は観光客集客、地域の振興に大いに貢献しているということで、地域伝統芸能大賞地域振興賞をいただきました。新聞等でも報道されていましたが、福井県でこの賞をいただいたのは二例目のことです。高円宮妃殿下から直接メダルをかけていただき、大変光栄な賞をいただいたと感じております。

荒井…授賞式の様子、勝山左義長ばやし保存会が出演し左義長ばやしを披露したときの様子など、会場の雰囲気はどうでしたか。



勝山左義長まつり実行委員会
委員長
松村 誠一

松村…本多の森ホールで行われた表彰式には、実行委員会として、委員長の私と、相談役の丸屋さんが出席しました。表彰式の後、祭りの主役であります勝山左義長ばやし保存会にお囃子を披露していただきました。高円宮妃殿下はこういった祭りに対して非常に熱心だとお聞きしていました。が、何と申しまして、東京オリンピック招致で日本のアピールに尽力された「時の人」であり、また、皇族の方から直接受賞いただき大変光栄でした。受賞できたのは、約三〇〇

年の伝統ある祭りにおいて、祭りの大切な要素である櫓をずっと年番(※1)の人たちが守り続けているということ、木村会長を頭とする勝山左義長ばやし保存会の皆さんがしっかりと活躍して左義長ばやしを伝承されていること、そのほか、どんどこ焼き(※2)、絵行燈(※3)、作り物(※4)、いろいろな要素が総合的に評価されたと感じております。

表彰式はステージ上に一人しか上がれなかったもので、私一人だけ上がりました。そのあと地域伝統芸能公演が行われまして、夕方、金沢城石川門で高円宮妃殿下との夕食会がありました。短い時間でしただけでも、そこは丸屋さんと二人で参加しました。妃殿下とお話をしている中で写真を撮らせていただいていたようですかと御本人に伺って一緒に撮っていただきました。大きくした写真が丸屋さんのお店に飾ってあります。

荒井…表彰式に出席された丸屋さんのご感想はどうでしたか？

丸屋…表彰式のあとの公演で、勝山左義長ばやし保存会の出演は二番目だったんですが、受賞者の中では一番目でした。ステージでやりますから大きい場所でしたが、大変賑やかで、横の席で見ていた人に本当に素晴らしい太鼓があるねとおっしゃっていたいただき、初めて見る方に深く印象に残ったのだろかなと思いました。妃

殿下にも、夕食会で最初の賑やかな太鼓が私たちの太鼓ですとお話しました。保存会の木村会長には本当にがんばっていただきました。木村会長は体の調子が悪かったので舞台には上がれなかったんですけれども、副会長の枡家さんが上手に仕切っておられました。二日目に石川県立音楽堂で披露した際には司会の方から質問を受け、枡家さんが丁寧に説明をしていただけだったので大変よかったです。



勝山左義長ばやし保存会
会長
木村 照雄

木村…私は肘の手術をしまして、退院して三日目だったので、太鼓は打てませんでした



が、副会長の枡家さんが私以上にしっかりとやってくれました。今回、このような名譽ある賞をいただくことになり、実行委員会から左義長ばやしを披露してほしいと依頼を受け快くお引き受けしました。櫓の上で勝手が違い、ステージの上でやってくださいと言われると、実は難しいんです。待機している太鼓の打ち手は櫓の上では休憩しているのですが、ステージの上では休憩しているわけにはいかず、何かしていないといけない。そこが難しいんです。しかし、本当におめでたい席で左義長ばやしをさせていただき大変名譽なことですよ。

荒井：石川県知事や金沢市長も見ておられたのですか。

丸屋：一日目の本多の森ホールでは、私たちの2列前に妃殿下が座っておられ、その横には石川県知事と金沢市長が座っていました。

荒井：左義長ばやしの公演は全部で何回されたのですか。

木村：一日目は本多の森ホール、二日目は石川県立音楽堂であり、二回行いました。

松村：金曜日のリハーサルも含めて、保存会の皆さんがあれだけの人数（二十三人）で泊りがけで行くのは初めてのことで、すごいです。

荒井：左義長ばやし保存会として今まで石川県でやったことはあるんですか。石川県は隣ですが、一般の人にはあまり知られていないという感じが



強いのですが。

木村：ここ五年ほどの間に石川には五回くらい公演に行っています。

松村：最近、左義長ばやし保存会が出向宣伝で県外に出向くことが多くなっています。その一つのきっかけとして、全国市長会に出演してもらったときに、近隣の自治体から、うちにもこういう祭りがあるから、うちのイベントでも左義長ばやしを披露してもらえないかと依頼が来ています。こうやって県外のイベントにも参加することが多くなってきました。そういう意味で他の自治体とつながりができてきていると思います。

荒井：出向宣伝に行ったときに左義長まつりの宣伝をするのにちらしを渡すような形で行かないと、口頭での説明だけでは、勝山に来ていただけると

ころまで時間がかかると思うのですが。

木村：現在も、いろいろなものを持って行っています。大きなイベントだと、大きなパネルを十枚ほど持って行って目立つところに貼ったり、ちらしができたら持って行ったり。平泉寺のパンフレットなど、左義長まつり以外のパンフレットもまとめて持って行ってテーブルを設けて配布しているんですよ。

松村：市のホームページに動画を載せているので、パソコンやタブレット端末などを使って、映像を見ていただいたりすることもできます。



ふるさとルネサンス委員会
委員 森 本 陽 子

森本：結構いろいろなところに行っていると思いますよね。東京とか、大阪とか。これからいろいろなところに行ってもらいたいですね。

荒井：せっかくなので賞をいただ

いて、左義長も盛り上がりつつあります。今回の受賞は全国に認められたようなものです。今後どのような形で皆さんに来てもらって、また、喜んでもらえる祭りにしていくか、地域の元気に結び付けていくか、考えをお聞かせください。

松村：素晴らしい賞をいただき、これからしっかり祭りを



ふるさとルネサンス委員会
委員 笠 松 捷多朗

継承していきたいと思っています。特に近年、観光客が増えてきていますが、こちらもいろいろな仕掛けをしていかなければなりません。たとえば三か年の文化庁の補助をいただきながら、絵行燈用の川柳を全国公募していますが、これはいろいろな分野で広がりをもせてきていると思います。この点につきましては、しっかりと広くPRできるようにしていきたい。すべての点でうまくいっているかというところ、そうではない部分もあります。実際には櫓を守る年番の力で後世につなげていると言つてよいと思いますが、やはり本町通りの昔からある地区は、過疎化、高齢化、空洞化の波の影響を受け、本来は本町通りが主体で行われた祭りですが、櫓を担う人材不足という問題に陥っています。そんな中で子どもばかりしコンクールが始まったのですが、子どもの数が少なくてコンクールに出られない区もありますし、いくつかの区ではこのまま年番がはたして継続していけるのかという声も聞いています。そのあたりは実行委員会ですっかり話をしているのかという話を話



合い、この三〇〇年の伝統ある祭りを勝山の祭りとしてしっかり発信できる仕組みを作っていきたいと思っています。また、昔は左義長という勝山地区以外の地域の人はほとんど参加していませんでしたが、今は個人的にとか、他の地域の人も参加して櫓を支えているところもあります。そういうことが少しずつ広がっていくといいのかなと思います。そしてやはりこの祭りは準備に二か月くらい時間がかかります。太鼓の練習は、年中やっているようなものです。いろいろな地域で盛り上がりを見せますが、そのところをどう組み立てていくか、持続可能な仕組みづくりが必要です。櫓によって事情が異なりますので、いろいろ

と御意見を出していただき、それを皆さんに議論してもらった必要もあるのかなと思います。当然太鼓の部分は保存会の木村会長にサポートしていただき、アドバイスをいただきながらやっていきたいと思っています。

荒井：木村会長からみた現状と課題は何でしょうか。もっと盛り上げていくためにはどうしたらいいと思われますか。

木村：丸屋さんともずっといろいろな話をしていますが、昔は男性だけが太鼓を叩いていたのが、ここ数年、女性の打ち手や若い男性も増えてきました。小さい頃から子どもばやしを男女問わずやってきて太鼓を打てるようになってきた。それはいい方向に向いてきているのですが、行儀ができていない人が多い。これぞ日本の祭りというような日本の代表的な祭りでは、祭りの担い手は子どもの頃にお茶汲みから始めて、祭りに参加させてもらっているという意識を持ってやってきているから、ある程度行儀ができています。しかし、勝山では若い人にそれができていないように思っています。

荒井：やはり神事ですから行儀はきちんとできていないといけないですね。

木村：それに、芳野区は二百軒、沢区は二百軒と、大きな区は何百軒も家があるが、二十軒ほどしかない小さい区もある。小さい区だと、二年に一



回は年番がまわってくる。

森本：負担が大きいところもあるんですね。

丸屋：逆に良くなった点もある。作り物や絵行燈をすることで、町内のコミュニケーションがうまくできるようなったと思う。

荒井：先ほど木村会長がおっしゃっていた、行儀の話ですが、枠にはめるといふ訳ではないけれど、伝統を後世に繋いでいくという意味も含めて、「こういうルールでやりましょう」とある程度取り決めをした方がよいかもしれない。各櫓の特徴を出したいという思いもあると思うが、そういうことは取り決めの中でやってもらった方がよいのか、それとも、みんな自由にやればよいというふうにするのか、いろいろな意見があると思います。



ふるさとルネサンス委員会
委員
阿部 光郎

阿部：櫓によって太鼓の打ち方も違っていると思います。

木村：太鼓の打ち方にもいろいろな打ち方があります。形に納めてしまつて難しい話になってしまつて、どの打ち方が正統な打ち方だという話になってしまつて。打ち方にこだわるなら、当時の服装なども含めて昔のいろいろな方の話をテープに録音してあるので、それを聞いてもらいたい。

荒井：全国区に広がるうとしてい

る今、しっかりと足元を固めておかないといけないですね。

松村：左義長の舞台でやる芸というのは時代と共に少しずつ変わってきている。誰かがおもしろいことを始めると、それをやってみようとなる。非常に柔軟性がある祭りととも言えます。手踊りなどの三町芸(※)だったのが太鼓に変わり、太鼓をどうやって本流から外れずにやっていくかというのは、保存会と議論いただければいいと思います。祭りと共にいろいろなものが出てくると思うんです。芳野区では、最近では雪だるまを作るなど、夜も楽しんでもらつて工夫をされていて、これが広がったりするんです。やはり本来の左義長まつりは五穀豊穡を願つて御神火を送り、どんど焼きをするの



ふるさとルネサンス委員会
委員
松 下 一 栄

が本当で、それを賑やかにするために舞台があつて、今は太鼓が主流です。その他に作り物や絵行燈がある。それぞれ守つていかなければなりません。が、時代と共に五十年一〇〇年単位で変わっていくものなのかなと思います。

森本：盛んになればなるほどバリエーションが広がるのかなと思う。ただそれを押さえつけるよりも、本流は本流としてあり、バリエーションが広がるものは広がるものとしてどんどん広げることと、四国のヨサコイなんかもどんどん変わつていっていると言いますよね。盛んな証拠じゃないかな。

木村：私は変えてはいけな

い。少しは変化に対応してい

かなければいけないが、郷土

芸能とか神事というものは、お

客さんが来ても来なくても昔

やってきたことをやらないと。

荒井：左義長の歴史は変化の歴

史でもあります。そういう部

分も汲んでいる祭りですか

ら。左義長まつりは勝山に賑

わいをつくる一番大きなイベ

ントです。いいところは残し

つつ、たくさんの人に来ても

らえる祭りにしたいですね。

今回の受賞を契機に更にがん

ばりましょつ。

松村：保存会の方々にも定期的

に講習会をやつてもらつて、

そういうことが定着して底辺

は広がっていると思います。

芳野区の公民館からは年中

太鼓の音が聞こえるようにな

りました。小さい地区のクラ

ブでも県外まで交流を深めに

出かけている。そういった広

がりやを大事にしながら櫓と

櫓の連携、地域の絆を高め、

伝統を三〇〇年、四〇〇年、

五〇〇年と繋げていく、今回

の受賞は伝統を未来へ繋ぐた

めの一歩だと思っています。

(※1) 年番：区の左義長まつり全般的運営を担う当番役。区により人数は異なるが、複数が年番にあたる。

(※2) どんど焼き：注連縄、門松、御札などを松飾りに取り付け、それを一カ所に藁で積み重ねて燃やす行事。左義長まつり二日目の午後九時より弁天河原で点火される。

(※3) 絵行燈：世相風刺・狂歌・行政・観光・駄洒落を織り交ぜて庶民の願望を描いた行燈で、まつりのときに町内の辻や櫓の周りに掛けられる。

(※4) 作り物：その年の干支や吉祥形態にちなんだ作品を、日常生活用具を素材に選び、即興で作上げる。素材や作品を洒落言葉で表現した「書き流し」(短歌)が添えられる。

(※5) 三町芸：素人が演じる歌舞伎や能、狂言、踊り、漫才など、それぞれの町内(袋田町、郡町、後町)が工夫を凝らした出し物。江戸時代は櫓の上で三町芸を披露していた。今のように笛や太鼓が櫓で演じられるのは明治中期頃からと言われている。

東京勝山会の近況について

東京勝山会事務局 山 岸 紘 憲

11月11日の東京勝山会の日に例年どおり、総会・懇親会を開催したところ、勝山市より山岸市長・荒井商工会議所会頭を始め5名の参加を頂き盛大に開催する事ができました。山岸市長より山口茜さんやいろいろと活躍しているスポーツ選手、富士松菊子氏の紹介がありました。また荒井会頭より「勝山ふるさとの歌」の紹介がありました。楽しい会になったと自負しています。

東京勝山会としての行事は年1回の総会以外に、年2回の幹事会・年2～3回の歩こう会・年2回のゴルフコンペを行っています。それぞれの幹事さんが頑張って段取りを行っています。関東にお住まいの方で参加希望の方は下記幹事まで。

ゴルフ部会：幹事 中村 (090-1795-9307)

ウォーキング部会：幹事 河北 (090-8642-1197)



関西勝山会の近況について

関西勝山会事務局 高 井 征 夫

第87回となる今年の関西勝山会の総会及び懇親会は、11月23日に前年と同じく大阪市都島区の太閤園において開催しました。

今年は、ご来賓と会員で102名が参加され盛大に行われました。勝山市長からスライドによる勝山の近況説明をしていただきました。特に山口茜さんのすばらしい成績により、日本どころか世界に我がふるさと勝山の名を知らしめたことにとても感動しました。当会より「山口茜選手を育てる会」へ金一封を贈呈し、また、会場の多くの方が育てる会へ入会され、育てる会からは感謝の意を頂戴しました。



懇親会の余興として、演歌歌手を呼んでおりましたが、茜さんの話で影が薄くなったような気がしました。最後は終了時間までカラオケで賑わい、3時間30分の会は終了しました。

今後も、会員相互の親睦と、ふるさと勝山との連携をはかり、関西勝山会を発展させていきたいと思っております。勝山市出身者で関西地域に在住されている方は、是非一度ご参加下さい。事務局へ連絡頂ければ、案内書をお送り致します。

〒542-008 大阪市中央区南船場1-7-8-403

高井会計事務所内

関西勝山会事務局 高 井 征 夫

電話 06-6261-2006

奇祭 勝山左義長まつり

第2回 絵行燈用の川柳募集について

昨今の世間の話題、政治や社会問題、吉祥干支にちなんだ川柳を募集します。

なお、入賞作品は、勝山の絵行燈専門家が川柳にちなんだ絵を描き絵行燈にして、左義長まつり当日に飾られます。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

応募締切：平成26年1月10日（消印）

応募規定：ハガキ、メールまたは所定の応募用紙郵送で応募してください。川柳、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、職業、観光パンフレット送付希望の有無を明記のしてください。応募点数に制限はありません。ただし、1通につき3点以内とします。

お問い合わせ・郵送先：〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1

勝山市商工観光部観光政策課内

勝山左義長まつり実行委員会

事務局 TEL 0779-88-8117

メール kankou@city.katsuyama.lg.jp

ホームページ：<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/kankou/andon/top.htm>



昨年の受賞作品

勝山市フォトコンテスト作品募集について

古き良き日本の原風景を今に残す、福井県勝山市。

このまちの風景をテーマに写真を募集しています。四季折々の自然、貴重な文化遺産などあなたの新しい視点で「とっておきの勝山の風景」を切り取ってください。応募テーマは全10部門、あなたにあったテーマでぜひチャレンジしてください。そして、受賞作品は賞金のほかに、2015年の勝山市カレンダーに掲載予定です。

勝山の1ページを彩るあなたの作品をお待ちしています。

応募締切：平成26年7月31日

お問い合わせ・郵送先：〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1

勝山市商工観光部観光政策課内

勝山市フォトコンテスト実行委員会

事務局 TEL 0779-88-8117



平成24年度勝山城博物館フォトコンテスト最優秀賞：嶋田 春一

春便

勝山組曲 第四楽章

勝山に春を呼ぶ祭り
「勝山左義長まつり」が終わると、
雪どけを待っていた草木が芽を出し始めます。
早春のほろ苦い味「勝山水菜」の季節です。

勝山の逸品をお届けする「かつやま・あじな便り」が、
今年から「勝山組曲」というブランドで装いも新たに
リニューアルいたしました。

お届けする商品一つ一つが勝山に関する一曲の音楽。
その音楽が季節毎に組み合わせられて一つの「組曲」として
届けられます。

五感で楽しむ「勝山組曲」をご贈答やご自宅向けに
ぜひお買い求めください。

春の便発送は
平成26年
3月下旬です。

販売者・お問合せ先

勝山市民活動ネットワーク内「勝山組曲」係

〒911-0811
福井県勝山市片瀬町1-402
TEL: 0779-871011
FAX: 0779-871022



勝山おやき 2個
「細目の焼けた焦げ目」が香ばしいことと「蓬」がたくさん入っている味が特徴です。特産品として知られている勝山の名物です。



勝山水菜 1束
太い茎（とう）が特徴的。独特の甘み、ほろ苦さを兼ね備え、地域の人々は春を告げる野菜として、毎年心待ちにしている食材です。

その他の商品には
・勝山水菜の一本漬
・ローリエソルト 100g
・スコーン（焼き菓子）1個
・いちごソース 120g
・おばのふきのとう佃煮 60g
・草木染めコースター 1枚
全9商品をお届けします

※写真はイメージです。



りんごジュース 195ml
勝山組曲から東北復興支援として、三陸の海城をたっふり浴びながら育った、陸前高田市産のりんご100%のジュースをお届けしています。

ふるさと納税で、ぜひ勝山市に応援を!!

「ふるさと納税制度」は福井県が提唱した制度で、ふるさとを応援したいという方々の想いを実現するため、地方公共団体に対する寄付金の額に応じ、所得税と個人住民税が軽減されるものです。また、寄付先は、出身地に限らず自由に選べ、好きな地域を応援することができます。

時代とともに変わるべきもの、変わってはならないものを見極めて、勝山の自然や歴史、文化を大事にしながら、だれもが住みやすいまちづくりを進めています。ふるさとでは懐かしい人たちが元気に暮らし、山や川は今も昔も変わらない美しい四季折々の表情を見せています。

「勝山市」への熱い想いととも、ふるさと納税での応援もお願いいたします。

応援していただく6つの視点

下記の6つの視点から寄付金の使途を指定してご寄付をしていただくことができます。

①「目指そう世界遺産！白山平泉寺」

- 白山平泉寺整備にかかる事業に活用

②「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」

- ジオパークの推進にかかる事業に活用
- 「かつやま恐竜の森」整備にかかる事業に活用

③「エコ環境都市」

- 「エコ環境都市」の実現を目指した事業に活用
- 地域交通、生活環境充実にかかる事業に活用

④「新体育館建設」

- 新体育館建設にかかる事業に活用

⑤「すこやか・かつやま」

- 子育て支援にかかる事業に活用
- 高齢者、障害者福祉にかかる事業に活用
- 地域医療充実にかかる事業に活用

⑥「東日本大震災救援・支援」

- 勝山市が独自に行う東日本大震災救援・支援事業に活用

※特に使途の指定がないもの

勝山市の方で使途を設定させていただきます。

税制上の優遇制度

- 勝山市へ寄付していただいた金額が個人住民税と所得税から控除されます。

- 控除される税額の算出方法は以下のとおりです。

①所得税の控除額 (年間寄付金額の合計 - 2,000円) × 所得税率

②個人住民税の控除額 下記のア・イの合計額

ア (年間寄付金額の合計 - 2,000円) × 10%

※年間寄付金額の合計は総所得金額の30%が上限です。

イ (年間寄付金額の合計 - 2,000円) × (90% - 所得税率)

※イの控除額の上限は、個人住民税所得割額の10%が上限です。

※詳しくは、下記またはお住まいの市区町村住民税担当課までお問い合わせください。

※税額控除を受けるには、確定申告または住民税の申告が必要です。

寄付のお申込方法

勝山市へご寄付をいただける方は、下記連絡先（勝山市役所未来創造課）までご連絡をお願いいたします。折り返し必要書類と郵便振替用紙を送付させていただきますので、お近くの郵便局よりお振込みください。

詳しくは、<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/>の、「ふるさと納税」をご覧ください。

ふるさとルネッサンス委員

(順不同・敬称略)

委員長 丸屋 仁志
副委員長 本田 高士

委員 荒井 由泰・笠川 小末
笠松 捷多朗・森本 陽子
阿部 光郎・松下 栄

ゆっくいのんびり
観光にきませんか?

